



発行 一般社団法人 日本品質管理学会
 東京都杉並区高円寺南1-2-1 日本科学技術連盟東高円寺ビル内
 電話.03 (5378) 1506 FAX.03 (5378) 1507
 ホームページ:www.jsqc.org/

CONTENTS

- 1-トピックス 品質管理検定制度の改訂について
- 2-私の提言 「品質指向ソフトウェアマネジメント」
- 2-ルポルタージュ 第365回中部事業所見学会ルポ
- 3-2月・3月の入会者紹介/選挙告示/事務局からのお知らせ/行事案内
- 4-行事案内/教員公募/会員名簿改訂のお知らせ

品質管理検定制度の改訂について

品質管理検定運営委員会 委員長（統計数理研究所） 椿 広計

品質管理検定に久々に大きな制度改訂が実施され、それに伴い各級レベル表の改訂作業も開始される。

新たな仕組みは、2級を中心とした繰り返し受験の推奨と、今一步の努力で昇級する受検者のための情報開示である。

品質管理検定（以下、QC検定）は、2005年4月に創設され、同年12月第1回が実施され、3,601名が受検した。ほぼ右上がりの成長を続け、2013年3月実施の第15回検定では、過去最高の43,062人が受検し、これまでの累積受験者数353,943名、合格者数230,598名を数えるに至った3級以上では、品質管理の実践と統計的方法を中心とした品質管理手法の2分野を評価することで、わが国競争力の源泉の一つである管理・改善活動に資する知識や力量を保証する検定制度を目指している。現在、15の協賛団体、33の協賛企業の支援を受け、わが国産業競争力の基盤たり得る人材の育成・評価のためのユニークな検定に育ちつつある。

創設以来、大きな制度見直しは、2回あった。一つは、立ち上げ当初、年1回実施であった検定を、2007年度から年2回実施としたこと。もう一つは、産業界ステークホルダー、特に協賛企業との1年近い品質管理で求められる知識・能力に関する議論と、認定団体であるJSQC理事会の承認の下で、2008年10月に各級のレベル表を大幅改定したことである。

QC検定運営委員会では、検定の社会的価値、利用的価値を高めるために2012年4月より産業界の運営委員会を中心に制度見直しを開始した。運営委員会が危惧した点は、QC検定2級と1級とのギャップであり、QC検定2級合格者が、1級にチャレンジすることなく、品質管理技能の維持・改善を終了してしまうという制度的問題である。世界の多くの専門職団体が、実務専門家に対して、不断の力量の維持・改善を社会責任として求めている。品質管理検定を教養活動として受検されるのならばともかく、実務の中で専門家として責任ある活動を行う可能性が高い職業人受検生の場合には、検定がその力量改善・維持の自己評価・点検の一助となる仕組みとならなければならない。

以下では、平成25年度から実施した仕組みの見直しの概要を紹介する。

まず、これまで受検者に勧めてきた上位級チャレンジのみならず、合格級への繰り返し受験も推奨することとした。これは、上で述べたように主として2級合格者に対する推奨である。もちろん、既存の合格実績は永久に保証されるが、ボランティアな力量の維持と時代に即した知識の習得に努力する個人や組織を評価する仕組み、すなわち、繰り返し受験に対する経済的支援と繰り返し合格履歴の希望者に対する公表などを実施することとした。また、再受検

の正当性をより強く示すべきというJSQC理事会の要請に応え、QC検定レベル表の定期的な見直しを行い、品質管理の基本理念を維持した上で、時代に即した品質管理専門家の力量を定期的に発信することとした。既に2013年4月の運営委員会で、JSQC代表委員に対して、本作業への協力を依頼した。

第2に、検定受検者に公開する情報を大幅に多くし、自身の力量がどの程度にあるかをより明らかにする措置を講じた。特に、2級と最難関とされる1級との力量のギャップを埋め1級への力量改善を促進するため、1級の一次試験（手法・実践分野の知識を問う選択式試験）合格者を準1級合格とし、論述式試験（実務への活用力を問う2次試験）を合格すれば1級合格となる力量であることを情報開示することとした。同様に2級試験不合格者に対してもあと一步で合格する水準である状況か否かを開示することとした。

これら、新制度の導入により、検定の自己点検機能は強化され、社会的期待に応えるものになると運営委員会では信じているが、その根幹にあるのは品質管理専門家がどのような社会的機能を果たすべきかというレベル表の内容であり、この定期見直しは、重要な位置づけとなっており、ここに本来あるべき姿が計画されていなければならない。その司令塔としてのJSQCの貢献は重大と言わざるを得ない。

● 私の提言 ●

「品質指向ソフトウェアマネジメント」

鳥取大学大学院工学研究科社会経営工学講座 教授 山田 茂



昨今、社会基盤を支える情報システムのコンピュータソフトやデジタル製品の組み込みソフトウェアに潜在する人為的誤りや欠陥、いわゆるバグに起因するシステムや製品の不適合やトラブルの発生は後が絶えません。ソフトウェア開発者としては、開発期間の短縮化も図りつつ、顧客ニーズに合致した高品質ソフトウェアを効率的に開発できるように、その開発プロジェクトを成功裡に導いていく必要性にいつも迫られています。

品質の高いソフトウェア製品を開発出来るようにプロジェクトを確実に成

功させるためには、QCDに関わる問題を含む開発プロセスを持続的に改善していくことを意識しながら、開発スケジュールを詳細に計画し、開発プロセスの各局面での成果物をしっかりと定義し、開発プロセスの状態の是非を判定できる定量的基準を持つ必要があります。そのために、企業の実践的研究者も含む筆者の研究グループでは、ソフトウェア品質の持続的向上という課題に取り組む中で、PMBOK（プロジェクトマネジメント知識体系）とCMM（開発能力成熟度モデル）に基づくマネジメントプロセスの標準化と定着化のために、プロジェクトマネジメント技術を導入して、その効果の評価と検証を行ってきました。これらの実践的研究を踏まえて導き出されたの

が「品質指向ソフトウェアマネジメント」であり、品質を重視したプロジェクトマネジメントを徹底し、それに関わる技術の持続的向上を図っていくということになります。すなわち、開発プロセスの計測・制御およびソフトウェア製品（成果物）品質の予測・評価を、プロジェクトマネジメントの中で実践しながら、

- 製品品質向上のためのマネジメント技術の獲得
- 獲得したマネジメント技術（プロセス品質向上のためのプロセス改善技術）の定着
- プロジェクトの定量的評価に基づく定着したマネジメント技術の改善といったマネジメント技術の獲得・定着・改善のサイクルを絶えず回して行く必要性を強調したいと思います。

実際のソフトウェア開発現場において、「品質指向ソフトウェアマネジメント」の考え方が取り込まれ、高品質ソフトウェア製品の生産につながることを切望する次第です。

第365回中部 事業所見学会 ルポ

トヨタ車体(株) いなべ工場

さる、平成25年4月12日(金)に第365回（中部支部92回）事業所見学会が、トヨタ車体(株)いなべ工場（三重県いなべ市）にて開催された。「トヨタ車体 いなべ工場品質向上の取り組み」のテーマの下、37名の参加者で行われた。

トヨタ車体(株)は1945年（昭和20年）にトヨタ自動車工業(株)から分離独立し、トラックボデーの専門メーカーとして発足、現在に至っている。今回の見学先であるいなべ工場は、1993年（平成5年）に操業を開始し今年20周年にあたる。主な組立車両は、ハイエースやアルファード・ヴェルファイアとなっている。

工場見学では、広大な敷地の中、組立、車体、成形工場の3工場をバス移動する形で実施された。

組立工程では、組立作業時の姿勢や重量工具の取り回し改善など気遣いなく作業できる環境作りに見られ

る徹底した作業視点の工程が紹介された。他にも同じ作業を行っている岐阜車体との比較による改善やからくりを活用した改善についても報告され、参加者からは、大変参考になったとの感想が多く聞かれた。

また、車体工場のボデー工程では、品質風土づくりの一環として、教育コーナーが紹介され、年に2回作業員全員が体験型で教育を受けるという仕組みから、「人」の育成を重視していることがうかがえた。

最後に、成形工程では、お客様に満足して頂ける補給生産の実現に向けて、バンパーにキズをつけず、作業員負担も考慮した改善が報告され、車体工場の紹介事例もあわせ、大変参考になる内容であった。

全体を通して、参加者から積極的に質問がされ、工場見学の時間が大幅に延長することとなったが、安全への十分な配慮に対する参加者からの声も多く聞かれ、大変満足してもらえる結果となった。

最後にトヨタ車体いなべ工場の皆さまには、業務多忙の中、充実した見学内容の提供と丁寧な説明に、この場を借りて厚くお礼を申し上げます。

板津 博典（株東海理化）

2013年2月の 入会者紹介

2013年2月26日の資格審査において、下記の通り正会員1名、準会員1名の入会が承認されました。

(正会員1名) ○鈴木 孝明 (経営システム総合研究所)

(準会員1名) ○鈴木 理史 (東京工業大学)

2013年3月の 入会者紹介

2013年3月25日の理事会において、下記の通り正会員5名、準会員10名、職域会員1名の入会が承認されました。

(正会員5名) ○澤田 雄一 (東京電力)
○林 明夫 (開倫塾) ○山本 博行 (神鋼エンジニアリング&メンテナンス) ○前田 誠 (前田コンサルティング) ○眞田 計 (新日鉄住金化学)

(準会員10名) ○清水 悠貴 (中央大学) ○関 テイテイ・黒沼 充樹・後藤 健之・杉崎 哲平・海道 裕太郎・河田 紘志・後藤 謙介 (早稲田大学) ○沖原 大樹・橋本 健 (青山学院大学)

(職域会員1名) ○岡田 宏 (京三製作所)

正会員：2271名

準会員：89名

職域会員：2名

賛助会員：161社214口

公共会員：22口

行事案内

●第364回事業所見学会 (本部)

テーマ：日米の文化を超えた改善
リーンの紹介

日時：2013年6月27日(木)13:30~16:30
見学先：米海軍横須賀基地
FLCY及びSRF-JRMC

定員：40名 (会員優先)

参加費：会 員2,500円 非会員 3,500円
準会員1,500円 一般学生2,000円
※当日払い

申込締切：6月21日(金)

申込方法：本部事務局宛E-mailまたはFAX
にてお申し込みください。

●第29回FMESシンポジウム

テーマ：自己・事業・企業の変革による
新領域への挑戦

日時：2013年7月18日(木)13:00~17:55
懇親会18:00~

会場：政策研究大学院大学
想海樓ホール

代議員・役員選挙告示

日本品質管理学会第43年度~第44年度 (2013~2015年) の代議員ならびに
役員の選挙を次の日程で行います。

投票用紙発送：7月26日(金)~31日(水)

投票締切日：8月31日(土)

当日消印有効

開 票 日：9月12日(木)

参加費：FMES構成学会員2,000円

非会員3,000円 懇親会1,000円

※当日払い

詳細：ホームページをご覧ください。

<http://www.jsqc.org/fmes/events/>

申込・問合せ：

研究・技術計画学会事務局

office@jssprm.jp

●第148回シンポジウム (本部)

テーマ：ISO 9001第三者審査の質向上
と組織での有効な推進方法

日時：2013年7月20日(土)9:55~17:00

会場：日本科学技術連盟

千駄ヶ谷本部 1号館3階講堂

定員：150名

参加費：会 員 5,000円 (締切後5,500円)

QMS部会員3,000円 (締切後3,500円)

非会員 10,000円 (締切後10,500円)

準会員 2,500円 一般学生3,500円

申込締切：7月12日(金)

プログラム：

特別講演「統計の教育方法」(仮題)

椿 広計氏 (統計数理研究所)

活動概要

「QMS有効活用及び審査研究部
会活動について」

福丸典芳氏

(福丸マネジメントテクノ)

WG1 研究報告「マネジメントシステム
共通テキストの研究」

亀山嘉和氏

WG3 研究報告「ビジネスプロセスに
おけるQMSの位置付け」

武藤政春氏

WG4 研究報告「会社を強くする『自
己適合宣言』の研究」

池田輝雄氏

WG6 研究報告「中小企業経営者が使
いたくなるISO 9001推進方法
の研究」

及川忠雄氏

事務局からのお知らせ

日本品質管理学会監修「JSQC選書19」好評発売中

●JSQC選書19 (157ページ)

書名：信頼性・安全性の確保と未然防止

著者：鈴木 和幸

判 型 等：四六判、並製本

定 価：1,680円 (税込) → 学会員特典価格：1,344円 (税込)

申込方法：ホームページより会員専用注文書をダウンロードし、FAXにて
お申し込みください。E-mailでも受付しています。

http://www.jsqc.org/ja/kanren/jsqc_sensyo.html

申 込 先：本部事務局 FAX 03-5378-1507 E-mail apply@jsqc.org

※書籍は請求書を同封して日本規格協会から発送いたします。

WG 5 研究報告「次世代対応の第三者
監査技法の研究」

川原啓一氏

WG 7 研究報告「有効性を高める審査
活動ための審査技術の標準化」

上月宏司氏

まとめ 福丸典芳氏

申込方法:

ホームページからお申し込みできます。

<http://www.jsqc.org/q/news/events-list.html>

●第147回シンポジウム(関西)

テーマ: ビジネス、ヒット事業の作り方

日時: 2013年7月23日(火)13:00~17:30

会場: 大阪大学中之島センター
10階メモリアルホール

プログラム:

講演①「グローバル競争における競争
優位性の実現方法: 製品設計
思想をどこに求めるか?」

藤原浩一氏(同志社大学)

講演②「人と組織から考える、ヒッ
ト事業の作り方」

松岡保昌氏(キャリアファーム)

パネルディスカッション

司会: 岩崎日出男氏(近畿大学)

参加費: 会員4,000円 非会員5,000円
準会員2,000円 一般学生2,500円
※当日払い申込方法: 関西支部事務局までE-mail また
はFAXにてお申し込みください。

●第93回QCサロン(関西)

テーマ: 製品安全ガイドライン

ゲスト: 弘田貴巳氏

(製品評価技術基盤機構)

日時: 2013年8月7日(水)19:00~20:30

会場: 中央電気倶楽部 3階317号室

参加費: 1,000円(含軽食・当日払い)

教員公募

青山学院大学理工学部経営システム工学科 教員公募

1. 募集人員 助教1名
2. 所属 理工学部経営システム工学科
3. 専門分野 経営システム工学(最適化技術領域)
4. 応募資格 (1)所定の科目が担当可能であり、学部および大学院の教育・研究に熱意があること、(2)博士の学位を有するか取得見込みであり、相模原と青山の両キャンパスに出講できること、(3)グローバル化に熱意のある方、(4)キリスト教に理解がある方。
5. 着任時期 2014年4月1日
6. 提出書類 ホームページをご覧ください。
<http://www.aoyama.ac.jp/recruit/detail52.html>
7. 応募締切 2013年8月31日(土) 消印有効
8. 書類送付先および連絡先
青山学院大学理工学部経営システム工学科 学科主任 松本 俊之
Tel: 042-759-6305(直通)、Email: saiyo@ise.aoyama.ac.jp

申込方法: 関西支部事務局までE-mail また
はFAXにてお申し込みください。

●第102回研究発表会(中部)発表募集

日時: 2013年8月28日(水)

会場: 名古屋工業大学

申込締切: 2013年8月21日(水)

申込方法:

中部支部事務局までE-mail またはFAX
にてお申し込みください。

詳細: ホームページをご覧ください。

●第103回研究発表会(関西)発表募集

日時: 2013年9月13日(金)

会場: 大阪大学中之島センター

申込締切:

発表申込締切: 7月26日(金)

予稿原稿締切: 8月28日(水)必着

特別講演:

「流れをつくる」

飛田甲次郎氏

(Goldratt Consulting Japan)

申込方法: 5月送付の申込要領をご覧の

上、関西支部事務局までお申
し込みください。

行事申込先

JSQCホームページ: www.jsqc.org/

本部: 166-0003 杉並区高円寺南1-2-1

日本科学技術連盟

東高円寺ビル内

TEL 03-5378-1506

FAX 03-5378-1507

E-mail: apply@jsqc.org

事務局携帯: 090-9128-7979

中部支部: 460-0008 名古屋市中区栄2-6-1

RT白川ビル7階

日本規格協会 名古屋支部内

TEL 052-221-8318

FAX 052-203-4806

E-mail: nagoya51@jsa.or.jp

関西支部: 530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-25

日本科学技術連盟 大阪事務所内

TEL 06-6341-4627

FAX 06-6341-4615

E-mail: kansai@jsqc.org

会員データベース更新のお願い【重要】

庶務委員長 兼子 毅

当学会では、2010年度から会員名簿の発行を取りやめ、オンラインで会員データベースを提供しています。このデータベースは、会員からの変更届をもとに随時更新しておりますが、今年は3年に一度の名簿改訂の年に当たるため、全会員を対象としてデータベースのご確認と修正をお願いすることとなりました。詳細は7月中旬に送付する「品質」に同封いたします。皆様ご協力頂きますよう、お願いいたします。

なお、今回の改訂では、会員データベースの各項目の「公開・非公開」に関する取り扱いに変更があります。そのため前回の会員データベース更新の際に選択いた

いた「公開・非公開」は一旦初期化されております。

学会が会員で構成されたコミュニティであるとの観点から、今回のデータベース更新以降、【氏名】、【所属】、【研究分野のキーワードまたは専門分野のキーワード】、【興味分野のキーワード】は「非公開」を選択できないように扱いを変更いたします。現在これらの項目を「非公開」とされている会員の情報も「公開」扱いとなります。また、今回、会員ご本人による修正や確認が行われなかった場合、データベース上の項目が「公開」扱いとなりますので、必ず内容の確認をお願いいたします。